



# 日 口 交 流

発行: 特定非営利活動法人日口交流協会

E-mail: nichiro@nichiro.org

Home Page: <http://www.nichiro.org>

〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-14

麻布台マンション401号

Tel : 03 (5563) 0626 Fax: 03 (5563) 0752



## マースレニツァ ～許しの日曜日～

安部 花子

2月22日、田町リーブラにてマースレニツァに参加しました安部と申します。昨年はロシア正教の大齋の時期と重なってしまい参加できない方もいらしたものの、今年は大齋前に無事開催することができ、昨年と比較しさらに多様な参加者で春の訪れを祝うことができました。会の副題は、その名も「許しの日曜日」。伝統的なキリスト教においては、大齋期間の直前の日曜日に互いの罪や過ちを許しあう日があり、春のお祭り「マースレニツァ」の期間にバターをたっぷり使ったブリヌイというクレープをみんなで食べて大齋期間中に口にできない乳製品を使い切り、厳しい大齋を迎えるための準備をするそうです。素晴らしい芸術に触れ、みんなでブリヌイを食べながら歓談を楽しむことができ、春の訪れをお祝いするのにふさわしい一日となりました。



この後も素晴らしい歌唱や舞踊が途切れることなく続きます。昨年に引き続き、スラブ民族舞踊団「スラヴァーニェ」の皆さんが中心となり、たくさんの方の民族舞踊を披露し

プログラムの始まりは、なんとミハイル・カンディンスキー先生のピアノリサイタルから始まりました。観客席のすぐ目の前に配置されたグランドピアノで、チャイコフスキー『四季』からマースレニツァや春をテーマにした曲を3曲、贅沢にも生演奏してくださいました。私自身、人生初のピアノリサイタル鑑賞だったのですが、世界最高峰レベルのピアノ演奏が自分の2～3m手前で繰り広げられるという体験に大変衝撃を受け、演奏中は瞬きする間もなく先生の奏でる音色や演奏する手の動きに釘付けになってしまいました。

てくださいました。太ももまで伸ばした長い髪を編み込み、輝く金糸があしらわれた丈の長い衣装を身にまとった女性ダンサーによるアゼルバイジャン舞踊は、白鳥のような優美な動きが特徴的。情熱的な男女のフォークダンススタイルのジョージア民族舞踊や機敏なコサックダンスは、オリエンタルな雰囲気満点。ナタリアさんが生歌唱するロシア民謡に合わせたダンスやウクライナの踊りは明るい曲調に合わせてテンポよく舞い踊るダンサーの皆さんの姿がとても印象的で、白地に赤や青といった色合いのサラファン（女性用ジャンパースカート）やココシニク（女性用髪飾り）、ルパシカ（男性用シャツ）といった衣装も相まって、まるでロシアのおとぎ話の世界に入り込んだようでした。今年はチャイカバレエスタジオから次世代のティーンエイジャーダンサーも参加し、国だけでなく年齢層も多様性に富んだアーティスト達による素晴らしい舞台となりました。イベント中盤ではロシア楽器の紹介や、出演者と観客が一体となって踊れるような体験タイム（写真）もあり、開幕から閉幕まで飽きることなく大変盛り上がった一日でした。

ホールでのコンサート終了後は、お約束のブリヌイ懇談会です！千葉副会長や岩橋さんと一緒に調理室で準備したブリヌイやビーフストロガノフ、雛祭りのお菓子を食べてみんなで歓談します。昨年ファンになった憧れのダンサーさんと会話するチャンスもあり、素晴らしい演技を見せてくださったことへの感謝を直接お伝えできて大満足！

出演してくださった皆様をはじめ、音響操作や舞台設営に尽力してくださったボランティアの皆様、素晴らしいイベントを成功させてくださりまことにありがとうございます。

### お知らせ

#### ●ロシア語クラス生徒募集中！

レベル別に個人、オンラインレッスンがリーズナブルな金額で受けられます。教えてくださるのはロシア人のベテラン講師陣です。見学は1回のみ可能ですのでお問合せください。受講される場合は、会員になっていただきます。

#### ●キルギス料理講習会

日時：2026年4月5日（日）10：00～14：00

場所：田町「リーブラ」料理室、造形表現室

\*エプロン、布巾、お持ち帰り容器をご持参ください。

#### ●ロシア語の泉 (17)

日時：2026年4月19日、5月10日、6月21日 13：30～16：00

講師：スニトコ・タチャーナ

場所：事務所またはオンライン

授業料：会員7000円、一般8500円

#### ●ロシア民謡を楽しむ会

日時：4月18日（土）

\*月に一回、カンディンスキー先生の指導でロシア民謡をみんなで歌います。アルト、バスが不足しております！

\*エプロン、布巾、お持ち帰り容器をご持参ください。

\*お問合せ、お申込みは交流協会事務局まで。

nichiro@nichiro.org FAX:03-5563-0752

### お願い

NPO 日口交流協会では、ロシアでの日本の伝統文化などの紹介、国内でのロシア関連の学習会、ロシア人とのイベント交流など幅広い活動を続けています。これらの活動を一層推進させるために皆様からのご寄付をお願い申し上げます。一口千円からいくらでも結構です。なお、寄付とわかるようにお名前の前に番号「01」と入れてください。

振込先:郵便口座 00160-9-66486、加入者:日口交流協会

三菱東京UFJ銀行 六本木支店 普通 1077497

連絡先:日口交流協会事務局 E-Mail:nichiro@nichiro.org



## 「遊布会」「夢広場」に参加

千葉 麻里

2025年10月27日(月)～28日(火)に池袋のオレンジギャラリーで、昨年も日本料理の小野田先生主催の展示即売会に便乗させていただいた。手作りの発表を兼ねた会だ。手作りの仲間が集い、いつもその友人たちが応援に駆けつけてくれる。小野田先生の交友関係は広く、常にお客さんがいる。

私たちはロシアの民芸品などを出した。マトリョーシカはいつも人気があり、ホフロマ塗の華やかさも目を引く。

また、11月3日(月・祝)は、ぼっぼ町田の野外広場で町田国際ボランティア祭り「第27回夢広場」が開催され、会員の岩橋さんの協力のもと、参加することができた。舞台では昨年の「マースレニツァ」に出演した「スラヴァーニエ」の高道さんが剣舞を披露してくれた。途中、名島貴美枝さんが、終盤に江本常任理事が応援に駆けつけてくれた。

この催しは、国際交流を行うボランティア団体が集まり、民族音楽、民芸品などを展示即売し、日ごろの活動を紹介する。ジンバブエ、スリランカ、朝鮮や南米など、日ごろ馴染みのない様々な国との友好を手掛けている団体だ。協会も新聞などを置いて、文化交流を主とした草の根の民間交流を行っている旨、アピールした。

展示品には服部会長や渡邊常任理事、菅野エレナさんにも供出いただいている。いつもご協力ありがとうございます。

(副会長)



夢広場

## 八杉貞利の日記

大原 翔

ロシア語学者八杉貞利についての企画展(於東京外大)に行ってみた。「八杉貞利(1876-1966)は、日本のロシア語学界の先達の一人。東京帝国大学言語学科卒業、1901年にロシア留学、1904年日露戦争勃発により帰国。帰国前の1903年より東京外国語学校教授、37年に退官するまで同校ロシア語学科主任教授。同時に東大、早大で講師を務めた。岩波版露和辞典(1935年)等著作。」(新版ロシアを知る事典 2004年、平凡社より引用。)

4年前に公開された映画「ラーゲリより愛をこめて」(二宮和也、北川景子らが出演)を記憶されている方もあろうか。シベリアに抑留された主人公の帰国がかなわず、ラーゲリ(収容所)で病死する。死の直前に書いた遺書を持ちかえることは禁止されており、一緒に抑留されていた人たちが遺書を暗記して日本に引き揚げ後、日本の家族に伝えたという、胸を打つノンフィクションである。

原作は、辺見じゅん著「収容所から来た遺書」(1992年、文春文庫所収)で実在の主人公は山本幡男であった。同書に、山本幡男(1908-1954)は、戦前に東京外国語学校ロシア科(現東京外大)に学び、社会主義運動に傾倒し卒業直前に余儀なく退学したとある。「教え子の山本の身を案じた主任教授の八杉貞利は、山本をなんとか復学させたいと奔走した。学校側は、山本が詫言状を出すなら卒業させると譲歩するところまでこぎつけたが、山本はそれを蹴って退学届けを出したと言われる」と書かれている。

山本幡男の学生時代につき調べているうちに、同級生の高橋宣彦(1907-1986)にゆき当たった。高橋宣彦は戦前、ソ連映画の普及に尽力し、ソ連図書輸入販売ナウカ、その後、満鉄調査部に勤務している。戦後満洲からの引き揚げ後、ソ連の定期広報誌「今日のソ連邦」の編集を1977年まで務めた。高橋の生涯については、『ドラマティック・ロシア in JAPAN III 日露異色の群像30』(2014年、東洋書店)に詳しい。高橋は最後の病床の中で、「頭から離れられない2つの苦悶があった。それは東京外語時代、友人のほとんどがストライキで退学処分を受けたが自分は卒業したこと」と後悔の念を口にしていたとある。高橋宣彦は1929年(昭4年)3月に東京外語卒業、一方、山本幡男は、3月に退学している。同書に「外語卒業にあたり、八杉貞利は北樺太石油を高橋に就職斡旋したが彼はそれを断り若き日の闘争の道を選択する」とある。

山本や高橋らが3年生の1928年は、3.15事件(3月15日、全国一斉の共産主義者の大量検挙)はじめ、治安維持法が強化され、思想弾圧が一層強まった年。高橋の文章によると、東京外語で軍事教練反対、授業料値上げ反対などを要求した学生ストライキを起こしている。その中でも10月には、学生によるロシア語劇(トルストイ「一切の禍根」)が上演されており、山本や高橋らも参加している。(東京外語露西亜会会報7号、昭和3年12月)尚、旧制の高等専門学校(外語や高等商業など)は、修学期間は3年で、東京外語は1927年(昭2年)入学以降の学生より4年制となっている。

さて、八杉貞利の日記は、1908年(明治41)より1965年(昭和40)の間、毎日几帳面に書かれて日記帖54冊になる。山本幡男についての記述が1928年(昭3)ごろにあるのではないかと期待した。今回の企画展で、1928年の日記がなぜか保存されていないことがわかり意気消沈したが、後日、山本らが3月に退学した年、1929年(昭4)の日記を閲覧できた。

1929年1月からページをめくっていった。あるある!

2月20日、11時登校、課長会よりまた例の件、露3年山本、高橋勝太郎、即勾留件なり、うるさきこと限りなし。2月28日(学校の)主幹会列席、又、山本(名前判読困難)、高橋2名に(略)誠に不快至なり。3月16日、外語の主幹の成績検閲会あれば行く。前日の主幹会議にて要領よくやりたれば、問題に上る者少なく一写千里にて行うべく予想せしもやはり何角と手間取る、第3学年を・・・して、4時半散会。

山本の名前を八杉の日記の中に見つけて心が躍った。八杉主任教授が、山本、高橋2名につき学校当局と協議している様子が推察される。ただ、明治人の文体かつ手書きであり、判読が難しいところもある。2月28日には、山本の名前も書かれているが、不鮮明で判読が難しい。山本幡男である可能性は高いと思われる。同年のロシア語科3年生は、17名で、2名の山本姓(幡男と憲蔵)がいる。ただ、山本憲蔵は、陸軍よりの委託生であるので、八杉の日記の山本は山本幡男でまず間違いのないと思う。

キャンパスの桜が散らぬうちに、もう一度、東京外大に行き、八杉の日記の該当ページを開き、目を凝らして名前を確認しておきたいと考えている。

ウズベキスタン便り

## ナマンガン州の学校・幼稚園改革

後藤 三加子

ウズベキスタン共和国では、近年「進んだ外国の教育制度を取り入れた教育改革を進める」との大統領の方針を受け、フィンランド、シンガポール、日本などの教育制度を取り入れた教育改革に取り組んでいます。そして私は、2023年から2年間フェルガナ州で日本の教育を紹介する教育アドバイザーの仕事をしてきました。そして、今年の2月からはナマンガン州で教育アドバイザーをすることになりました。

ナマンガン州はフェルガナ盆地の北西に位置するウズベキスタン国内で第2位もしくは第3位の人口の多い都市です。そして、州の中心のナマンガン市内は人も車もとても多く活気に満ちあふれた都市です。

今回の教育改革の取り組みの中でも特徴的なのは、就学前教育（幼稚園での教育）と、学校教育においても学齢の低い4年生までの道徳教育に特に力を入れるということです。そして、私の活動開始よりも早い9月から、隣の州であるフェルガナの取り組みを参考にしながら改革を進めてきました。道徳教育に力を入れるということで、授業だけでなく日本と同じように学校や幼稚園での活動自体



の中で道徳性を養っていこうということです。教室や廊下の掃除を子供達が交代で取り組むことで公共心、責任感、協力しながら行うことで自立心や達成感を養うことにつながっているとのこと。また、靴箱を設置し、靴を履き替えた後の整頓などを心がけることで、家庭に戻ってからの靴をそろえる習慣に繋がり、給食を取り入れ配膳や片付け、手洗いの順番待ちや整列なども体験しています。ファストフードではない健康を考えたウズベキスタンの伝統の食事をクラス

の友達と味わいながら、食事の時のマナーなども学んでいます。教室には電子黒板が設置され、教科書だけで学ぶのではなく画像や動画など実物に近い資料が提示できるようになったり、学習クイズやゲームを取り入れた授業の工夫ができるようになってきたりしています。

ナマンガン州の各地区を回り、先生はじめ教育関係者と関係を深めながら日本の教育をヒントにしながら、ナマンガンとしての教育や指導法を展開していければと思います。

(ナマンガン州教育アドバイザー)

## 2025年夏 ウラジオストック・ハバロフスク訪問記(5)

岡崎 好典

13年ぶりにロシアに入国した日の翌日の2025年8月30日は土曜日。昼頃に、ハバロフスク在住のパートナーがママとともに列車でウラジオストックに到着し合流しました。パートナーとママがウラジオストックに来た目的は、私に会うためというよりも、パートナーの娘さんが9月からウラジオストックの大学に入学することになったことから、その一人暮らし開始の支援をするためでした。夕方には、先にウラジオストック入りしていた娘さんも合流し、4人で食事に行ったりしました。

そして翌日の8月31日日曜日、この旅の目的の一つであるシベリア鉄道に乗車しました。列車はウラジオストック16時00分発ソヴィエツカヤ・ガヴァニ行き、ハバロフスク翌朝6時6分着予定の351列車でした。パートナーが月曜日の朝から仕事のため、パートナーも同乗しました。列車は「ロシア号」（ウラジオストック・モスクワ間）や「オケアン号」（ウラジオストック・ハバロフスク間）といった名称もなく、車両も少し古かったのですが、20両の車両を機関車が牽引する長大寝台列車でした。

私たちが乗車したのは、四人部屋の2等クラスで、食事は付いてなく、食堂車もないようでした。それでも、各部屋に配付されたメニューを見ると、紅茶・コーヒー等のドリンク類、スナック・ポテト等のおやつ類、アイスクリーム、おみやげなどの車内販売がありました。私たちの場合は、たまたま昼食のレストランで余った料理を容器に入れて持ち込んでいたので、紅茶だけオーダーしました。

途中駅でロシア人と中国人が乗ってきて、部屋は定員の4人になり、パートナーに通訳しても

らいながら会話を楽しみました。なお、列車の途中駅停車中にホームに降りて休憩することはなく、ハバロフスクまでずっと列車内にいました。列車に乗っていて驚いたのは、貨物列車を含め、すれ違う列車が非常に多かったことです。物流・人流にとって非常に重要な幹線であることがよくわかりました。

夜になったので、出発時に配布されたシーツ類を使用して自分でベッドメイクをし、だいたい22時ごろに寝て、朝5時ごろ起きて、ハバロフスクで降りる準備をしました。そして、定刻の午前6時6分、夜が明けたばかりのハバロフスクに到着し、14時間6分の列車の旅は終わりました。振り返れば、私が以前、シベリア鉄道のハバロフスク・モスクワ間に乗車したのが1986年2月のことです。39年後の2025年8月にシベリア鉄道のウラジオストック・ハバロフスク間に乗車して、ようやく世界最長のシベリア鉄道9,297キロの全線走破ができました。

なお、帰りに乗った「オケアン号」は、飛行機の機内食のような食事が付いていたほか、食堂車も連結され、さらにベッドメイクも済んでいました。また、トイレの個室内にはシャワーコー



ウラジオストック駅ホーム

ナーもあり、より快適な列車の旅が楽しめるようになっていました。また、次の旅行の準備をされていてわかったのですが、初回の報告で、「agoda」等のアプリではウラジオストックやハバロフスクのホテルの予約ができなかったと報告しましたが、私が航空券を購入するのによく使う「Trip.com」では、ホテルの予約とクレジットカードによる決済ができましたので、最後に申し添えます。(副会長)

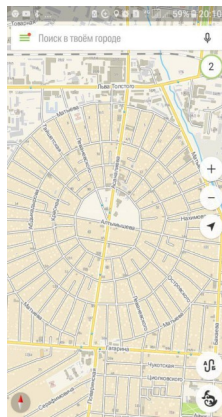
## 私のキルギス (2)

浜野 道博

「プラハの春」(1968)は20年後におとずれる東欧民主化の先駆けであった。このチェコスロバキア民主化運動の先頭に立ったアレクサンデル・ドゥブチェク(1921-1992)がその少年期をキルギスのビシケクで過ごしたことを偶然知ったとき、私はビシケクで勤務していて、アジアとヨーロッパを混成したようなビシケクの風景にも違和感を覚えることはなくなっていたが、どうしてもプラハとビシケクをむすぶなにかの消息があるようには思えなかった。

ところが、ビシケクの地図をながめていたあるとき市の中心からやや東南に円形で放射状にひろがる広い地区(130ha)があることに気がついた。(図)ビシケクは1878年以降ロシア人が建設した町で通りが基盤のように整然と東西南北に走っている。そんなビシケクでここだけ円形の市街地があつていかにも目立つ。ちなみにこの地区を地元のキルギス人もロシア語で「ラボーチィ・ガラドーク(労働者街)」と呼んでいたがどういふわけがあるのか知る人はまわりにいなかった。

いまからちょうど100年前、ここはただの草原だった。近くに鉄道(図上部)が敷設されたのはその頃の話である。開通したばかりの鉄道でヨーロッパから熟練労働者が家族を連れ大挙してやってきた。第一陣が1925年、主力は1926年で1000人を超えた。この変わった移民たちを組織したのは1923年チェコで組織されたINTERHELPO(相互扶助)という名の勤労者生産協同組合で、家財だけでなく製



材・木工機械、旋盤、皮革加工資材のちには紡織機、製粉機など多種多様な生産設備をはるばる持参していた。

移民の中核はチェコ人でスロバキア人、ハンガリー人の家族もいた。彼らはキルギスに社会主義を建設しようというレーニンの呼びかけに応じて遊牧民の地キルギスにやってきた開拓民だった。

ビシケク到着早々ロシア語でゼムリャンカと呼ばれる半地下の土小屋を急拵えし徐々に生産活動を展開していくのだが劣悪な環境のもとチフスや栄養失調で命を落とす者が出て辛酸を嘗めた。それでも1930年代に入ると鑄造、紡績、家具製造などが進展し、診療所開設や鉄道建設にも関わっていく。最盛期にINTERHELPOはキルギスの産業基盤の3割近くを占め、多くのキルギス人労働者を育成し、キルギスの近代産業振興に多大の貢献をした。

円形の街区をもつ「ラボーチィ・ガラドーク」はINTERHELPOが建設したのだった。1930年代初頭ソ連各地ではさまざまな都市開発プランが実現されたが、円形の市街地は珍しい。ユートピア小説「太陽の都」(1602年トマソ・カンパネッラ)に端を発する太陽を模した建築思想が反映されているという説もある。

1929年に始まった世界恐慌時代英米などからもソ連社会主義に人類史の暁を見ようと故郷を捨てて多くの労働者が家族を引き連れてソ連に移住した。しかし夢はかなえられなかった。ある者はスターリンの弾圧の犠牲となり収容所に送られ、ある者は祖国に戻り、ある者は独ソ戦の前線で戦死した。ごくわずかな人々がソ連国籍を取得し残留した。INTERHELPOは1943年に解散した。アレクサンデル・ドゥブチェクは1938年スロバキアに戻り激しい反独闘争を経て戦後のチェコスロバキアで頭角を現したのだった。

## 復活祭の卵を作ろう

キタヤマ 忍

正教会の今年のパスハ(復活祭)は4月12日。宗教に熱心ではなくとも季節の節目のこうした行事は、身近な人との思い出や絆を深める、あるいは心穏やかに過ごす大切なひと時だろう。パスハに欠かせない物といえばそう、卵だ。卵は生命・復活・豊穡のシンボルである。忍耐の冬を終えた春に生命を祝う起源は、キリスト誕生より遙かむかしの古代ペルシャにまで遡る。古代ペルシャ、エジプト、ローマでは暗闇への光の勝利・新たな生命・子孫繁栄の象徴として、絵付けした卵を贈り合ったと言う。現在、東欧ではキリストの血を表す赤に染め、ドイツでは兎と卵がペア、他にも繊細な模様を描いたり、卵の装飾には全国各地の歴史と伝統が受け継がれている。

伝統を受け継ぐ一方、卵の装飾にもトレンドがある。ここ10年ほどのロシアのそれは、宇宙を彷彿とさせる柄からシックな高級感のある柄などを経て、昨年頃から注目のテーマは「石」。大理石や宝石の原石をイメージした柄、そしてくすんだ深い緑や紺色の「恐竜の卵」も子供たちに人気だ。自然素材で染色する昔ながらの作り方を応用するので、まずは基本の染色にチャレンジしたい。そしてオリジナルの美しい卵で春を迎



えてみてはいかがだろうか。

『金の卵の作り方』

【材料】白い卵(中身は出さず殻のまま)、水1ℓ、塩大さじ1、ターメリック大さじ1~2、酢大さじ2、植物油(仕上げの磨き用)

【淡い色になる作り方】

1) 鍋に材料を入れ10分ほど弱火にかける。2) 火を止め、さらに10分ほど置いておく。さらに時間をおくと濃くなる。3) 好みの色になったら水から出して乾かす。乾いたら植物油を塗り込み艶を出す。

【発色の良い作り方】

1) 普通のゆで卵を作っておく。2) 容器に水500ml、塩、酢、ターメリック大さじ3~4を入れてよく混ぜる。3) 2)の溶液に1)のゆで卵を入れ、冷蔵庫に2時間以上おく。\*短時間だとレモン色、長時間になると蛍光色に近い色まで染まる。4) 好みの色になったら水から出して乾かす。乾いたら植物油で艶を出す。

その他の主な染色材はビーツ、玉ねぎの皮、ハイビスカスティー、紫キャベツ等で、それらを組み合わせて他の色を作る。また卵の表面を水で濡らして葉を貼り、ガーゼで包んで溶液に浸し模様をつける。(ビデオグラファー)